



修養科はたすかるところ



修養科へ向け 詰所を出発する修養科生

真 朋

発行所
天理教芦津大教会
〒546-0003
大阪市東住吉区
今川8丁目6番32号
電話 06 (6702) 1980
FAX 06 (6700) 1854
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp
印刷所 天理時報社

元という、ぢばというは、世界もう一つと無いもの、思えば思う程深き理。

明治28年10月11日 おさしづ

修養科は、陽気ぐらしの生き方を学び、人生を大きく変えることのできる場所です。修養科中には、車椅子の方が歩けるようになったり、ガンが消えてしまうなど、大きな喜びの姿を目の当たりにすることがあります。神殿や教祖殿で額づきながら、「神様は私のことをちゃんと見てくださっている」と親心を実感し、涙する日もあります。

修養科を志願する理由はさまざまでしょう。しかしそれらはすべて親神様によるお引き寄せに他なりません。神様が「たすけてやろう」とおぢばへ引き寄せてくださったからこそ、そして親の声に素直に応え、3カ月という時間をつくって志願したからこそ、大きな御守護を頂戴できるのでしよう。修養科で教えに基づく見方、考え方、喜び方を吸収し、共に通る仲間のおたすけを通して、「人救いたら我が身救かる」との教えが、心の底から分かってきます。さらに3カ月の修養科生活は、尊いぢばへの伏せ込みとなり、次のおたすけの種となります。

修養科はたすかるところ。たすけの根源であるおぢばで、人だすけのできるようべくへと成人させていただきますでしょう。

正面四方

5月末、有事に備えての教区災害隊訓練に参加した。今回の作業は、山林の遊歩道整備や樹木伐採などの景觀整備であったが、

その山中深く、よもやというところに、古の隠し田跡があった。隠し田とは、農民が年貢の徴収を免れるために密かに耕作した水田であり、飢饉など不測の事態への備えでもあったとのこと。

この夏、都市部を中心に、「令和の米騒動」なる現象にて、スーパーの店頭からお米がなくなつた。まさかの事態に、当教会でも予備のお米がなく、神饌にも事欠き、大変慌てることとなつた。

「備えあれば憂いなし」と言うが、おさしづに「危ない事、微かな理で救かるは日々の理という。」(明治26年4月29日)と諭される。ようべくお互いは、日々の信仰実践の積み重ね、日々の理こそが、先への備えと心得て歩ませてもらいたい。

《8月月次祭 挨拶》

苦心と骨折りを惜しまず

教会に繋がる若者の丹精を

大教会長 井筒梅夫

皆様方には、日頃から論達の精神を心に掛けながら、時旬の道の上にご丹精いただきまして、誠に苦勞様です。また暑さの厳しい中を大教会にご参拝いただき、共に8月の月次祭を勇んで勤めさせていただきましたことは、大変ありがたい次第です。

さて、今年の「こどもおちばがえり」は猛暑の日が続きましたが、大きな事故や怪我もなく、無事に終えることができました。

詰所で把握しているところでは、少年会員61名、育成会員437名、合計108名の婦参報告がありました。帰ってきた子供たちや育成会員の方々も、親里の楽しい夏を味わってもらえたでしょうし、何よりおちばのお徳を戴いてくださったことがありがたい次第です。

また、「学生生徒修養会・高校の部」も、連日の猛暑の中、恙なく終えました。芦津からは15名が参加してくれました。4泊5日の合宿を通して、学生たちは、仲間と過ごす楽しさはもちろんのこと、お道の素晴らしさや喜びを味わってくれたでしょうし、これが新たな信仰の芽生えのきっかけになってくれたことだと思います。

今年のこどもおちばがえりの婦参者総数は約15万人、学修の総参加者数は約750人でした。全盛期の頃の約半分までになりました

が、コロナ禍が明けてからは、おちばでの育成活動も徐々に増えてきている様子です。今こうして道を歩む私たちには、末代続く道の御守護を期して、これからの道を背負って通ってくれる次の代に信仰を繋ぎ、ようぼくとして育てていく役割と責任があるのです。

そこで、若い世代の丹精において、心に留めておきたいおさしづがあります。

若い者寄り来る処厄介、世界から見れば厄介。なれど道から厄介ではない。道から十分大切。 明治26年6月19日

これは郡山大教会初代会長夫人である平野トラ様が戴いたおさしづです。当時、郡山初代会長・平野栖蔵先生は、お屋敷の御用やおたすけに丹精にと東奔西走しておられましたので、教会の留守をトラ夫人が預かっていました。しかも、ただ留守をしていたわけではなく、行き場を失った子供や身寄りのない子供を大勢預かって育てておられたのです。そんな状況ですから教会の中には「厄介なことやな」といった空気が流れていたのかもしれませんが、そんな折にトラ夫人は身上を頂いて、お屋敷へ帰っておさしづを仰いだところ、このお言葉を戴いたのです。「世界から見れば厄介。なれど道から厄介ではない。道から十分大切」とのお言葉を肝に銘じて、真心を込めて仕込み育てられ、それぞれを信仰者へと導かれました。その中でも1番やんちゃで手のかかった子供が、立派なようばくに成人して、後に郡山から分離する大教会の初代会長になられたことは、知る人ぞ知る話です。

また、教会は若い人だけでなく、世間では厄介と見られるような人をも預かってきたという歴史があり、また現在もそうした教

会があります。

その根底に流れているのは、「世界一れつは兄弟姉妹」「世界一れつをたすけて陽気ぐらしを味わわせてやりたい」という、親神様の教えであるのは間違いありません。この教えが、現在多くの教会で取り組んでおられる「里親制度」への取り組みにも繋がっていると思います。

また、教会に若い人たちが集まるようになれば、教会に活気が出てきて、それまでになかった若い人たちの姿と力を嬉しく感じるはずです。しかしその反面、その賑やかさを「うるさい」と感じてしまったり、若い世代とどのように接していいか分からず、「若い人が教会に集まることはいいけれど、それはそれで手がかかるし、煩わしいことでもあるな」と、何か厄介に感じてしまうことも無きにしもあらずです。

しかし、人は親神様の深い思召があつて、その親の元に生まれ、教会に繋がるのです。そこに生まれてきた意味があり、なるべくしてなるいんねんがあるのです。

我が子に人としての道を説き、ようばくへと育てていく。教会に寄り来る若者に満足を与え、教会の一員として導いていく。もちろんそこには手のかかることもあれば、煩わしいと感じることがあるかもしれませんが、心を掛け、心を配り、苦心と骨折りを惜しまず、その子たちが将来勇んで道を通ってくれるよう、しっかりと共に丹精をさせていただきたいと思えます。

今月の月次祭も勇んで勤めることができました。大変ありがとうございました。

(要約)

立教百八十七年 八 月 月 次 祭 祭 文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様には陽気ぐらしをお待ち望み下さる親心から、妙なる御守護にお護り頂きまして、成人の道をお導き下さいます御慈愛の程は、誠に有難き極みでございます。又、今年のこともおちびがえりは、猛暑の続く中にも恙なく終えさせて頂き、帰参しました少年会員と育成会員は、銘々におちびの御徳を頂戴して、楽しい思い出を胸に国々処々へ戻らせて頂きました。

更には、学生生徒修養会に参加した高校生達は、喜びと感動のうちにお待ちしております。次代を担う若年層の上に賜ります導きに、お礼を申し上げる次第でございます。私共は、日に月に頂戴します御恵みにお礼を申し上げ、時句の道に励ませて頂いておりますが、その中にも今日の吉日は、おちびより理のお許しを頂きました尊き日柄でございますので、只今から役目にあずかる者一同、座りづとめ、陽気てをどりを勇んで勤めて、八月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には、厳しい暑さの中を今日を大切な一日と参らせて頂きました芦津の道の子達が、共々におうたを唱和して、一心にお縋りする真実の状をお受け取り下さいます。親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

私共はじめ、教会長、ようばく一同は、親神様の世界一れつをたすけたいとの思召に少しでもお役に立てるよう、周囲に心を配り声を掛け、身上に悩む事情に心倒す人々の心の支えとなり、その御守護を願って真実を尽くして、にをいがけ・おたすけに、修理丹精に真心を込めて勤め働かせて頂きたいと存じます。

何卒、届かぬながらも道の為に精一杯尽くす私共の真実の心をお受け取り下さいまして、尊きちばの理をお垂れ下され、不思議自由の理のまに／＼たすけ一条にお連れ通り下さいます。世界たすけの頼もしい道をお連れ通り下さいますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《8月月次祭神殿講話》

信仰の喜びと親の期待は

子供が育つ大きな力

役員 瀧本庄司

不器用な父

昨年の「教会長子弟育成者研修会」において、大教会長様が「信

仰者として育てていくために大切なことは、親や周囲が子供に期待をかけているかどうかだ」とお話し

してくださいました。このお話を聞いて、私は13年前、70歳で出直した父のことを思い出しました。

私の父、紀周分教会前会長は、ガンコな父で、御用一条、おたすけ一条で、現代の世間一般の父親像とはかけ離れていました。

父は、おたすけをして親の御用をしていたら、子供は放っておいても神様が育ててくれるという考えで、自分では子育てに関わることはほとんどなかったと思います。教会長として、おたすけ人として

は本当にすごい人で、尊敬すべき会長だったのですが、父としては失格じゃないかとさえ思っており

ました。時が経ち、私も結婚をして子供ができ、ときどき父とぶつかりました。

例えば、子供たちが夕づとめ前にアニメを観ており、おつとめに近づく頃に、楽しそうにエンディングテーマを歌っていると、父がやってきて、「おつとめの時間や」と言ってテレビを切るのです。当然子供たちは大泣きします。私は父に、「一言話をしてやってください、子供たちも機嫌良くおつとめに来てくれる。どうして一方的にテレビを切ったりするのか？」と言うと、父は、「3つ4つの子供と話をせなアカンのか。わしには分

からん。勝手にせえ」と怒られました。

ですが、そういうことがあつてから、父は父なりに反省してくれたのか、孫たちに話し掛けたり、コミュニケーションを取ろうと努力をしてくれるようになりました。

それから私は「父は分からず屋じゃなくて、ただ不器用なだけなんだ」と感じるようになりました。御用のこと、おたすけのことしか考えてなかったから、普通の生き方が本当に不器用なだけだったのです。

また生まれ替わっても

そんな父は、今から13年前、胃ガンの身上を頂戴し、余命3カ月と宣告されました。主治医の先生から、余命を聞かされた私は、悩んだ末に父に余命を伝えたと、父は「ホンマか。良かった。ありがたい」と目を輝かせて喜びました。

私は父が聞き間違えたのかと思いい、「あと3カ月の命やで」と再び告げると、「わしは神様に『出直すなら、心筋梗塞や脳梗塞のように

突然出直すのではなく、時間を与えてもらえるガンでお願いします』とずっとお願いしてたんや。

これであと3カ月でいろいろと出直す準備ができる。明日から信者さんに順番でわしのおたすけに来てもらってくれ」と言うのです。

それからひと月ほどの間、信者さんが代わる代わる父のおたすけに行き、そこで父が一人ひとりに最後のお仕込みをしました。それが終わると、次は私に「明日から毎日病院に来い」と言い、私に一人ひとりの信者さんの丹精の仕方や、それぞれの家のいんねん、今までの通ってきた道も含めて教えてくれました。

それらがすべて終わった頃には身体も衰弱し、声も小さくなってきました。7月末、いよいよ声が出にくくなってきた頃、話があるからと、私に長男を連れてくるよう言いました。

私の長男は当時小学校4年生でした。長男を病院に連れていくと父はそばに呼び、「実はな、おじいちゃん、もうすぐ死ぬねん。でも



な、おじいちゃんは死ぬのは全然怖くないねん。むしろ嬉しいねん。なんでかというと、おじいちゃんは、この病院に来てからずっと神様をお願いしてる事があつてな。おじいちゃんは、また生まれ替わったら教会の御用がしたいねん。また教会で会長さんになって、人だすけがしたいねん。だからな、神様に、20年後にお前の長男で生まれ替わらせてくださいってお願いしてるねん。だからよろしく頼むな」と伝えたのです。

当時、長男はまだ10歳です。おじいちゃんがもうすぐ死ぬということではいいっぱいのところに、おじいちゃんが自分の子供に

なつて生まれ替わつてくると聞かされ、目を丸くしていました。

父は続けて「だからな、おじいちゃんは生まれ替わるのが楽しみやから、死ぬのは辛くないねん。だからおじいちゃんのお葬式は泣かずに送ってくれよ、約束な」と言つて、長男と握手をしました。

それから2週間後、父は出直しました。長男はおじいちゃんとの約束を守つて、お葬式の時涙を我慢して送ってくれました。

信仰の喜びと大きな期待

それから夏休みも終え、二学期に入った頃、小学校から、「二分の一人成人式」の案内が届きました。私が子供の頃にはなかった行事で

すが、今は小学校4年生で10歳を迎えるので、そんな行事が全国的にできているようです。

どんな行事なのだろう、と思つて興味津々で行つてみました。すると、小学校のホールに舞台が設置されていて、全校生徒と保護者、町長さんをはじめたくさんの方の方も来ていました。

そこで何をするのかと思つたら、1人ずつ舞台上がり、「僕は将来、野球選手になります」「私は将来看護師になります」と、みんな将来の夢を発表していました。

私はそれを見て、「こんなことさせられるの？うちの子はどうするんだろう」と心配になりました。というのも、私は小さい頃から祖母に「あんたは大きくなったら教会長さんになるんやで」と事あるごとに言われ、私も自分は教会長になるものだ、何の疑いもなく思っていました。しかし、それを人に言うのは恥ずかしかったのです。だから今、目の前で将来の夢を言わされる長男がすごく心配になりました。

そして長男の番が回ってきました。長男は「僕は将来、天理教の教会長になります。おじいちゃんやお父さんのように、人前で神様のお話や、おつとめができるようにしっかり勉強することをここに誓います！」と発表しました。もう胸がいっぱいになりました。心配なんて全く必要なく、堂々と立

派に宣言していました。

私は、親としてまだ何もできていなかったのですが、父が出直す前に長男に話した数分間の言葉が、長男の心を動かしたのです。父の大きな期待が10歳の長男の心に届いたのです。そして教会長というのは、生まれ替わつてもさせていたきたいと思えるくらい、尊い御用だということを感じてくれたのだと思います。

長男は中学を卒業してから、その期待を背負つて、自らの意志で、天理教学校園高校、天理大学へと進み、現在は天理教校本科実践課程で学ばせていただいております。子供に伝えなければならぬのは、難しい教理でも、厳しい仕込みでもなく、信仰の喜びと、子供への期待なのだと感じました。

小さい頃から育てる意識を

長男が小学校低学年の頃はとても運動神経が良かったので、私は何を勧進したのか、長男にプロのサッカー選手を目指させて、引退してから教会長になればいいと

思つて、サッカーをやらせていた時期がありました。

そんな話を大教会の月次祭の直会でしたところ、大教会長様から「教会長は何かをリタイアした後を受け皿ではないぞ。イチローや浅田真央の親は、世界で活躍できる選手に育てるため、小さい頃から英才教育を施し、世界のトップアスリートになっている。これらのお道も、小さい頃からそうやってしっかりと育てられた教会長が必要になってくる時代が来るぞ」とお仕込みいただきました。本当にその言葉が胸に刺さったのと同時に、自分の言葉が恥ずかしくなりました。

それ以来、私は「これからわが子に立派な教会長になつてもらえるよう、小さい頃からしっかりと育てていこう」と決心しました。とにかく親が、「この子を立派な教会長に育てるんだ」という信念を持ち、毎日笑顔で勇んで神様の御用をする姿を見せることが大切だと思ひました。

そして中学を卒業したら、子供

たちは皆、おちばの学校に進学させています。おちばの学校は、親が教えきれないおつとめや教理を学び、そして何よりもおちばの尊さやありがたさを実感できる場所です。期待をプレッシャーと感じず、期待に応えられる力や自信をおちばでしっかりと培うことができるのです。

特に教会の子弟には、おちばの学校に進学することをお勧めしたいと思います。

この先の道を楽しむに

私は若年層の育成で、一つ心にかかることがあります。

ここ数年、教内では教勢の低迷に危機感を感じ、「これからのお道は大変だ」などと、ネガティブな発言を聞きますが、それを聞いた子供たちがお道を喜んで通つてくれるでしょうか。

陽気ぐらしの世の中に向かう長い道中、今のよう到低迷する時期はこれから何度もあると思います。落ちては上がりを繰り返しながら、陽気ぐらしの世の中に向かつてい

くのです。この先、そう遠くない将来、必ず上向きになってくる日があると、私は信じています。

おさしづに、

先長くは先の楽しみ、先長く心を持つて、(中略)多くの中ならどんな事もある。万事心得て先々運んで、そこで自由という理が現わす。

明治24年9月20日

今の処これでは〳〵思う。思わず、一年先又二年先、だん〳〵先楽しみ、子供成人楽しみと、これ一つ行く〳〵楽しみ、これ楽しんでくれ。

明治27年5月8日

とあります。

私たち大人が、この先の道を楽しむに、「ここから必ず結構な道になるんだ」と前向きに通らずにどうするのでしょうか。先の夢を見ずに、どうして子供たちがこの道を通つてくれるでしょうか。

いつの日かやってくる陽気ぐらしの世の中から見たら、今の私たちの時代は、まだスタートしたばかり。そうした初期の時代を私た

ちは通っているのです。そんなスタートしてすぐにつまずいていたら、本当に申し訳ない限りです。

種を蒔き、花を芽吹かせる

父が出直した後、私は会長としてどうしていったらいいのか、教会内容はどうかやったら充実していくのかを、同級生の本部の先生に尋ねたことがあります。

その先生は、「私たちは子供や孫の代で花が咲いてくれるように、日々懸命に種蒔きをしているはずや。同じように私たちの親々も、私たちの代で花が咲いてくれたらという思いで、たくさん種を蒔いてくれていたはずや。子供や孫のために種蒔きをするのと同時に親々が蒔いてくれた種をしつかりと芽吹かせ、花を咲かせるのも私たちの勤めや。親々の蒔いてくれた種を根腐れさせないように、しっかりと水やり肥やりをして芽吹かさないと申し訳ない」と教えてくれました。

私たちと同じように、親々、先人先輩方は、今この時代に花が咲

そして来月は「全教会布教推進月間」です。これもおぢばの声です。この声にもしっかりと応じて来月はいつ以上に布教に力を入

子供たちにはしっかりと期待をかけ、信仰の喜びを映し、親の声に呼応して、親々の蒔いた種をしっかりと芽吹かせ、教祖百四十年祭が終わったら、一面に花が咲き誇る姿を楽しみに、この年祭活動残り半分を勇んで勤め抜かせていただきますように。

胡 三 味 琴 弓 線			小 すりがね 太 鼓 拍 子 木 ちやんぼん 笛			地 方			てをどり				扨 者		扨 者		祭 主									
宗 我 邦 代	中 村 美 津 代	瀧 本 基 志 枝	井 筒 敏 成	岩 切 正 義	竹 内 義 忠	守 田 清 一	瀧 本 庄 司	今 川 政 治	山 田 道 弘	岩 切 正 教	井 筒 文 夫	奥 田 富 美 子	前 会 長 夫 人	会 長 夫 人	湯 川 正 硴	奥 田 正 徳	大 教 会 長	座 り つ と め	山 本 義 範	奥 田 眞 治	大 教 会 長					
河 合 遊 喜 恵	吉 田 幸 子	松 本 さ だ え	石 川 健 郎	吉 田 裕 和	樋 川 泰 士	浜 田 宣 郎	立 花 善 文	木 村 真 次	河 端 芳 雄	梶 川 和 隆	加 世 田 洋	岩 切 治 代	松 森 明 美	加 世 田 陽 子	奥 田 正 儀	葭 内 浩 博	川 畑 澄 博		前 半	賛 者	賛 者	指 図 方				
木 村 理 恵	石 川 石 美 奈	瀧 本 美 奈	松 森 誠 太	梶 川 芳 征	村 田 光 伸	西 本 興 正	今 川 聖 一	瀧 本 亘	瀧 本 一 太 郎	榎 本 康 紀	岡 本 久 昭	花 岡 由 紀 子	湯 川 照 代	河 合 ふ み 子	梶 川 和 人	川 畑 正 博	湯 川 正 信		後 半	吉 田 裕 樹	中 村 俊 和	瀧 本 眞 二 郎				
金 佐 藤 敏 幸			松 林 英 彦	久 米 義 彦	南 方 洋 一	宗 我 道 明	梶 川 芳 征	梶 川 和 人	榎 本 康 紀	川 畑 正 博	湯 川 正 信	村 田 光 伸	今 川 聖 一	西 本 興 正	新 居 里 実	花 岡 忠 和	奥 田 正 儀	浜 田 宣 郎	西 本 義 之	立 花 善 三	河 端 芳 雄	岩 切 正 義	山 田 道 弘	竹 内 義 忠	伝 供	井 筒 文 夫

道の後継者の集いⅢ 第1次開催

8月24日、25日の2日間にわたり、道の後継者の集い実行委員会（井筒敏成委員長）・育成部（山田道弘部長）は、「芦津 道の後継者の集いⅢ 第1次」を詰所で開催し、18歳から48歳までの41名（スタッフ対象者含む）が参加した。

この集いは、教祖百三十年



祭後からの10年間で計画されている、芦津に繋がる若者の育成計画の一つであり、立教181年に「集いⅠ」、立教184年に「集いⅡ」と3年毎に開催している。今年の「集いⅢ」は、論達に込められた真柱様の思いを学び、各々が自分にできるおたすけを見つけることがテーマとなった。

1日目は、午後12時30分からの開講式に続き、グループワーク①では、各班に分かれ、班付スタッフの進行のもと、自己紹介やゲームを通して班員同士が交流を深めた。

続いて講話ビデオ①ー①では、「ひながたの実践【三つのお言葉】」と題して、論達にある教祖ひながたの三つのお言葉が分かりやすく解説されたビデオを視聴した後、グループワークでねりあいを行った。次に、大教会長のお話。

「元を辿り、信仰初代の御恩

報じの道に思いを馳せ、今できる御恩報じに精一杯努めていただきたい。そして年祭活動の最中、どうしたら教祖にお喜びいただけるかという思案を忘れず、自分にできる信仰実践にしっかりと励んでもらいたい」と期待を述べられた。

その後、講話ビデオ①ー②では、「ひながたの実践【七つの行動】」と題して、論達にあるようばくに望まれる七つの行動について解説されたビデオを視聴。こちらもその後グループワークで、自分に今できていることやこれから実践することを再確認し、各々



の思いや活発な意見の交換がなされた。

夕づとめ選拝後、井筒敏成実行委員長より挨拶があり、5階会議室へと場所を移して懇親会。各班でオードブルを囲み会食を行った。趣向を凝らした班対抗ゲームなどもあり、大いに盛り上がりを見せ、最後に全員で記念撮影を行った。

2日目は、ウォーミングアップ後、講話ビデオ②「おたすけの実践」を視聴。芦津に繋がる若い教会長やようばくの年祭活動での信仰実践を取り上げた内容で、参加者は真剣に見入った。

その後、「自分にできるおたすけ」と題したグループワークと、集いを通してのふりかえりを続けて行い、ビデオ視聴で感じたことや、これから自分にできるおたすけに関して、また受講の感想や学んだことなど、班内で思いを語り合った。

参加者からは、「いろいろな



年齢や立場の方の話やビデオを通して、考え方や信仰実践が参考になり、何か自分にもできることがあると感じた」「身近なことから行動に移すことに意味があると感じた。自分にできるおたすけの幅が広がった。勇んで年祭活動を通りたい」といった声が聞かれた。

なお8月31日、9月1日で開催予定だった第2次は、台風10号の影響と安全を考慮し、中止となった。次回は10月5日、6日で第3次を開催予定。直前まで申し込みを受け付けている。

創立130周年記念祭

始良分教会

始良分教会（川畑正博会長、鹿児島県始良市）は、8月18日、大教会長夫妻、敏成さんをお迎えして教会創立130周年記念祭を執り行った。参拝者は70名。

記念撮影後、川畑正博会長が祭文を奏上。続いて大教会長が一同に向けて挨拶。「初代はじめ、先人の先輩方が御



守護を御恩と感じ、繋いでくださったからこそ、今の教会がある。元一日を忘れずに、これから百四十年祭に向けて、一層おたすけに邁進してほしい」と激励された。

座りづとめ、てをどりの後、川畑会長が挨拶。「先人方が、いくつもの節も乗り越えて、たすけ一条の信仰に徹し歩んでこられ、今日の結構な姿をお見せいただいている。初代

の信仰に立ち返り、たすけ一条につとめます」と決意を述べた。

その後の直会では、余興、くじ引き大会、教会創立記念DVD「130年の歩み」の上映があった。最後に全員で万歳三唱して、教祖百四十年祭への思いを共に固め、楽しく和やかな時間を過ごした。

ファミリーの集い

島原分教会

島原分教会（岩切正教会長、長崎県南島原市）では、8月16、17日の2日間にわたり、



「ファミリーの集い」を開催した。

1日目、月次祭後の夕食としてバーベキューで開幕。婦人会手作りのたこ焼きや焼き鳥が振舞われ、にぎやかに会食をした後、花火で楽しんだ。

2日目は、午前9時、岩切会長の手に合わせて親神様・教祖・祖霊様を礼拝。よろづよ八首を総立ちで勤めた後、全員で記念撮影。その後、少年会、学生会はゲームで盛り上がり、昼食で流しそうめんや手作りのピザ、かき氷を楽しんだ後、解散した。参加者は38名であった。

学生生徒修養会・高校の部
夏のレクリエーション行事

学生会

学生生徒修養会・高校の部が、8月9日から13日にかけて、4泊5日の日程で親里で開催され、芦津から15名が受講した。

今回は「陽気ぐらしに必要なこと」向き合うことの大切さ」をテーマに、全国から約750名の学生がおちばに帰り集った。学生たちは、講義、おつとめ勉強などで基本教理を学ぶとともに、グループワ



ークで共に語り合い、仲間と協力するレクリエーションを通してたすけ合いの喜びを実感した。

また、芦津学生会（森道治委員長）は、学修終了後の13日から14日にかけて、夏のレクリエーション行事を実施。こどもおちばがえりでのきしんを務めてくれた学生や、学修参加者、おちば在住の学生24名が参加した。

13日は本部神殿でおつとめを勤めた後、詰所でバーベキューや花火を楽しんだ。

翌日は午前中にプール、詰所で昼食後、スイカ割りゲームなどで和気あいあいとした時間を過ごした。

夏休みあしつ親子参拝

育成部

育成部（山田道弘部長）は、8月23日「夏休みあしつ親子参拝」を実施した。

「教会長子弟育成プロジェクト」の一環として立教180年から始まったこの親子参拝は、



夏休みを利用し、家族揃って大教会の月次祭に参拝しようという提唱から始まり、毎年恒例となっている。今年も教会子弟をはじめ大勢の少年会員が、家族ぐるみで大教会月次祭に参拝した。

祭典終了後には、参拝場では子供用のお下がり、食堂前では女子青年の協力を得て、かき氷が配られ、子供たちの笑顔が溢れた。

また夕づとめ後の直会にも子供連れの家族が大勢参加し、大教会長を囲んで、いつも以上に賑やかな直会となった。

教務部報

ようぼく講習会修了

西本 義之(尼崎)
西本美智恵(尼崎)
西本 陽子(尼崎)
大塚マリ子(尼崎)

立教187年8月18日

おさづけの理拝戴《7月》

榎本 真也(島新)
佐々木理菜(島新)
星野 理佐(津阪)
〔拝戴日順 3名〕

初席《7月》

〔2名〕津阪、大島
〔1名〕東津、春日出町、

登殿参列《7月》

多川 安友(祖谷川)
林 昭仁(山城谷)
加藤 道興(本京櫻)
金原 明(東布施)
加藤 仁(鳥栖)
村田 光伸(大冠)
茂内 浩(入江)
榎 康紀(菅ノ郷)
以上8名

〔順序運びより 15名〕

学生生徒修養会・高校の部

今村 育穂(大正町)
山田ひかる(鳥長)
岩切 美晴(鳥百合)
八木 雄輝(東大屋)
毛利 祐太(東大屋)
井上 陽(東大屋)
丸山 杏琉(東大屋)
岡田飛雄馬(東大屋)
寺本すみれ(紀内)
山下 保(芦山都)
棚原 天夢(沖縄)
白谷 龍真(四ツ山)
田中 穂羽(四ツ山)
徳野 直礼(紀周)
植坂 彩音(菅明德)
以上15名

月例統計(自令和6年1月1日～至令和6年7月31日)

項 目 名 称 () 内教会数	初 席	の お 理 さ づ け	修 養 科 修 了	教 人
大 教 会 (1)	8	7		
東 津 (13)	3			1
東 津 (23)	5	2		
吉 野 川 (29)	8	1		
島 原 (16)	16	3		1
日 方 (15)	7	4	1	
稗 島 (7)	3	1		
本 津 (2)		1		
日 高 (2)				
始 良 (5)	1			
津 和 (12)	3	3		
門 司 (6)	3			
當 別 (6)				1
大 島 (26)	15	6		2
沖 縄 (3)	2			
尼 崎 (2)	1		1	
四 山 (5)	1	1		
大 冠 (2)				
島 下 (1)				
天 保 (3)				
青 木 (1)				
芦 浪 (1)	2			
甲 邊 (1)	1			
芦 華 (1)				
天 津 (1)				
入 江 (1)				
豊 野 (1)				
紀 周 (3)	8			
勝 明 (1)				
神 島 (1)		1		
兵庫眞洲 (1)	2			
芦ノ郷 (2)	2			
本 明 勇 (2)	1	1		
明 道 (1)	4			
芦 東 (1)				
和 鎮 (3)	3			
神 滝 本 (1)				
芦 明 徳 (1)				
眞明彰化 (2)	12	3		1
本 氣 (2)				
芦 明 照 (1)				
眞 伯 (1)				
合 計 (209)	111	34	2	6

道の後継者の集いⅢ

教祖にお喜びいただける成人を目指して～自分にできるおたすけ～

第3次：10/5(土)～6(日)

対象：18才～48才のようぼく・信者子弟

場所：芦津詰所(1泊2日の合宿)

受講御供：2500円

← こちらから、オンラインでの参加申込可。
直前まで受け付けています。

